



# 日本植物病理学会ニュース 第66号

(2014年5月)

## 100周年記念事業についてお知らせ

### 2015年、日本植物病理学会は100周年を迎えます

Journal of General Plant Pathology 誌に、Review for the 100th Anniversary をシリーズで掲載中です。掲載後、約3ヶ月間はどなたでも無料でダウンロードできますので、是非この機会をご利用いただき、珠玉のレビューを研究などのご参考にしていただくよう、会員外の方にも宣伝をお願いします。

100周年記念レビュー（和文翻訳版）を掲載した日本植物病理学会誌別冊を2014年秋に発刊することを予定しています。

2015年3月28日（土）に、東京（千代田区）において、100周年記念大会・シンポジウムを開催する予定です。また、同日、平成27年度大会と合同の懇親会を開催する予定です。

日本植物病理学会100周年記念誌（仮称）を編纂中です。

#### 【平成25年度技術士（植物保護）第二次試験で12名が合格】

一学会創立100周年に、計100名越えを目指しましょう！

平成26年3月3日に平成25年度技術士第二次試験（農業部門・植物保護）の合格者が発表されました。次の12名の方が合格されました（敬称略）。合格者は計82名となりました。  
内田一秀（山梨県果樹試験場；日本応用動物昆虫学会会員）、片井祐介（静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター；日本応用動物昆虫学会・日本農薬学会会員）、今瀧博文（シンジェンタジャパン株式会社；日本農薬学会会員）、堅石秀明（株式会社クレハ農薬研究所；本会・日本農薬学会会員）、藤川貴史（農研機構果樹研究所；本会会員）、安田文俊（鳥取県農林総合研究所園芸試験場；本会会員）、井沼 崇（和歌山県果樹試験場；本会会員）、佐藤 裕（秋田県果樹試験場；本会会員）、菅原 敬（山形県庄内産地研究室；本会会員）、片山雅雄（富山県高岡農林振興センター；日本応用動物昆虫学会会員）、渡辺貴弘（福井県農業試験場；本会会員）、志岐悠介（横浜植物防疫所；本会会員）。

平成26年度の技術士第一次試験は平成26年10月13日（月・祝）に行われます。また、技術士第二次試験の筆記試験は平成26年8月3日（日）に行われます。詳細は日本技術士会のホームページをご覧ください。

日本植物病理学会、日本応用動物昆虫学会、日本農薬学

会、日本雑草学会、植物化学調節学会は、技術士（農業部門・植物保護）の社会での活躍について、積極的に取り組んでいます。平成26年度も多くの技術士（農業部門・植物保護）の誕生を期待しています。

#### 【今後の学会活動状況】

##### 1. 平成26年度大会

日時：2014年6月2日（月）～4日（水）

場所：札幌コンベンションセンター（札幌市）

##### 2. 平成26年度部会

###### (1) 北海道部会

日時：2014年10月16日（木）～17日（金）

場所：かでの2.7（札幌市）

###### (2) 東北部会

日時：2014年9月25日（木）～26日（金）

場所：いわて県民情報交流センターアイーナホール（盛岡市）

###### (3) 関東部会

日時：2014年9月11日（木）～12日（金）

場所：宇都宮大学農学部（宇都宮市）

###### (4) 関西部会

日時：2014年9月27日（金）～28日（土）

場所：富山大学五福キャンパス（富山市）

(5) 九州部会

日時：2014年11月12日（火）～13日（水）

場所：ジェイドガーデンパレス・サンプラザ天文館  
（鹿児島市）

3. 第10回植物病害診断教育プログラム

日時：2014年8月5日（火）～9日（土）

場所：弘前大学農学部（弘前市）

4. 談話会・研究会

(1) 第14回植物病原菌類談話会

日時：2014年6月4日（水）

場所：札幌コンベンションセンター（札幌市）

(2) 第13回バイオコントロール研究会

日時：2014年6月5日（木）

場所：北海道大学 学术交流会館講堂（札幌市）

(3) 第24回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム

日時：2014年6月5日（木）

場所：北海道大学 クラーク会館大講堂（札幌市）

(4) 第48回植物感染生理談話会

日時：2014年8月6日（水）～8日（金）

場所：作並温泉 鷹泉閣岩松旅館（仙台市）

(5) 第27回土壌伝染病談話会

日時：2014年9月24日（水）～25日（木）

場所：いわて県民情報交流センターアイーナホール  
（盛岡市）

(6) 第8回植物病害診断研究会

日時：2014年9月26日（金）～27日（土）

場所：富山大学五福キャンパス（富山市）

(7) EBC 研究会ワークショップ2014

日時：2014年10月1日（水）

場所：全農ビル（千代田区）

(8) 第26回植物細菌病談話会

日時：2014年10月9日（木）～10日（金）

場所：岡山空港温泉 レスパール藤ヶ鳴（岡山市）

【書評】

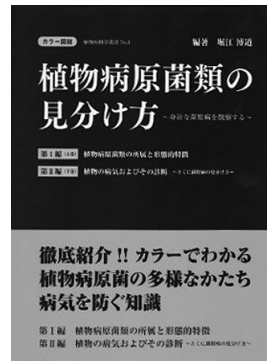
堀江博道編著 植物病原菌類の見分け方

～身近な菌類病を観察する～

27.2 × 19.4 × 4.5 cm, 162 頁

2014年2月3日, 大誠社

ISBN: 978-4865180084 定価: 18,514 円+税



私は現在、東京築地にある「国立がん研究センター中央病院」のベッドの上にいる。先刻、家からたまたま届いた郵便物を届けてもらった際、その中に立派な装丁の堀江博道編著「植物病原菌類の見分け方 上・下巻」が含まれていた。開いてみると中に法政大学教授堀江博道先生からの手紙があり、この本を出版した

たので「日本植物病理学会ニュース」に書評を書いてくれませんかとのことであった。本贈呈へのお礼とともに喜んで書かせていただきましょうとご返事したのはもちろんである。実は先生のお手紙の中にこんな一言が付け加えられていた。「“ルーペの世界”のご講演に感動し、その後の仕事の指針とさせていただいた者としては、是非とも岸先生に書評を書いていただければ、この上ない光栄です”，こんな泣かせる一文があったのである。

もうずいぶん昔のことになるので少し解説をさせていただいてから書評にとりかかるとにしたい。わたくしは昭和61～62年に選ばれて日本植物病理学会会長をやらせていただいたが、そのときの会長講演で『植物病理学におけるルーペの世界』という題で話をさせていただいた。この話のミソは、電子顕微鏡はもちろん光学顕微鏡がなくとも植物病理学者たるものは、「身に一つ手垢のついたルーペを忍ばせていればそれで十分診断はできる」というものであった。その講演にはあらかじめ準備した10枚足らずながら150倍くらいの低倍率顕微鏡で写した病斑上の分生子群や柄子殻、子囊殻などの写真を掲示したのは勿論である。その講演の後の懇親会では意外にも多くの人々、とくに都道府県の試験場の人たちから、わが意を得たりという感想をいただいた。自分の意図したところもまさにそういうところであったのでとても嬉しかった。考えてみれば堀江先生もそのころは東京都の農業試験場でバリバリの現役研究者であったわけである。

堀江先生編著の本を、上下巻とも詳しく拝読したが、ページをめくるとともにあるわあるわ、まずは羨ましいほどに見事な材料の病徴写真、それもすべてカラー写真である。

植物の写真は勿論だが顕微鏡写真にまで適切な色が付けられているからまことに見やすい。第I編（上巻）「植物病原菌類の所属と形態的特徴」は、この題が付けられているように、最初の約70ページの口絵は病原菌の所属に従って各ページとも被害植物の病徴写真とともに、病組織の切片で組織内の菌類のあり方を明確に示し、その組織の出どころがどんな植物のどのような病徴の部分の切片にしたのかが分かるような仕組みになっている。しかもその配列たるや病原菌類の分類学的所属の順序にきれいに並べられているのである。たとえば最初に出てくるのは *Plasmiodiophora* 属の菌類によるナタネ科植物の根こぶ病である。そこにはこぶの病徴とともに組織内の菌の存在がよく分かる写真が示される。さらにつぎには *Spongospora* 属の菌類によるジャガイモ粉状そうか病の罹病塊茎の病徴とともに組織内の菌糸や孢子球などが示される。次いで *Aphanomyces* 属はケイトウ根腐病やダイコン根くびれ病の病徴と病原菌の造卵器、卵孢子、造精器の形態などが示される。というようにこれでこれはもう既存の書物でいえば「植物病原菌類図説」と「日本植物病害大事典」を合わせたものでもいふべきか、とてつもない植物病害に関する専門書ができたものである。しかもそれだけではない。一枚めくったところに出てくるのは *Phytophthora* 属、その次が *Pythium* 属だが、この両ページなどはそれぞれ20枚ほどの写真で構成され、疫病菌の遊走子嚢、卵孢子、造卵器、造精器などもみごとな写真で示されている。

こうして並べてみると紙数がいくらあってもきりがないのであとは見ていただくことにして次に進もう。次の圧巻は98ページから始まる第II章「植物病原菌類を中心とした菌類群の特徴」である。ここはもう「植物病原菌類図説」の中身を圧縮し、しかも適切な説明図はいずれも白黒ながらも分かりやすい写真（カラー口絵に対応）とイラストを使って、菌類の分類学を徹底的に分らせてくれる。

第I編にだけにこだわっていると日が暮れてしまうので次に第II編に進むことにしよう。第II編（下巻）は「植物の病気およびその診断、とくに菌類病の見分け方」である。これは表紙の絵柄からして誰でもが度肝を抜かれるようなもので計8枚ある写真がいずれも素晴らしい。若干でも植物の病気のことを学んだ学生ならばこの表紙にひかれてさっそく中に入って行くだらう。そして中とはといえば、40ページあまりのカラー図版には徒手切片から電顕までの諸種の観察手法がくわしく紹介される。そこには「菌類病の見分け方」の範疇を自由自在に飛び越えて細菌病からウイルス病の範囲まで踏み込んで、詳しい情報が盛り込まれている。

この中にある *Chenopodium quinoa* を用いたウイルスの接種検定のやり方や芽接ぎによるウイルスの接種など、写真だけでも十分理解できるような配慮が行きとどいている。さらに次からのグラビアには、土壌伝染病、細菌病など専門家でもなかなか踏み込めない部分にまで手を変え品を変えて踏み込んで説明が加えられる。そしてさらに圧巻は、ウイルス病、線虫病の診断のポイント、さらに拡げて害虫の加害様式と被害(1)～(4)など植物病理学者がとかく壁を作って踏み込んで行かないところにまで、菌類病の症状との違いを念頭において丁寧な説明が加えられている。またもう一つ感心なことは、日焼け、葉害など厄介だが農業の本当の現場では、農業者がいちばん頭を痛める症状群が取り上げられ、さらに要素欠乏やアンモニアガスや光化学オキシダントなどによる被害についても正確な知識を提供してくれている。

つぎにグラビアから離れて文章の中身に入ってみよう。ここには第I章「診断の方法と病因別の診断ポイント」から始まって第II章「菌類病の観察・診断の基礎と実際」まで、編著者としてはかなり力を入れた記述になっている。ここは初学者には少し難しい項目もあるかもしれない。ただ、たとえば研究所や普及所の中堅や幹部になろうかという人たちがいざ自分で講義をしなくてはいけないというようなときには真っ先にここを開き、再読三読して自分でやる講義や講演の構想を練る参考にするとうまいだろう。編著者の堀江先生は親切にもそこまで読んで立派な参考書を提示して下さっているのだから。

なお冒頭に、私は現在病床にいてというようなことを記してご心配をおかけしましたが、現在の人体医学はわれわれが想像していたよりはるかに進んでおり、私だけではなく同じ時期に入院していた多くのがん患者仲間が、手術を受けたあと次々と退院し社会復帰していて、病室や廊下で会う他の患者も家族もなんとこのびのびしているのかと思ったものであった。そのことを同時にご報告し、われわれ植物の医者をも自任するものとしても負けてはいられない。われわれもまた堀江先生の御本やその他先人たちの偉業を参考に植物病理学者として自らの専門を生かして社会に奉仕しなければいけないと覚悟を新たにしたのであった。乞い願わくば今回拙文にお目を通してくださる方々が一人でも多く堀江先生や筆者の願いをおくみとり下さり、それぞれのお立場においてその方向にご努力して下さいれば望外の幸せである。

最後に、今回「一般社団法人 技術同友会」という見慣れない肩書きを入れさせていただいたが、この法人は200人ばかりの会員を有する会で、民間企業において技術系出身

で社長、副社長のような重職を務めた人あるいは現に務めている人、官庁ではやはり技術系あるいは研究系出身で局長、長官などを務めた人、それに若干の大学人とくに女性が自由に集まって組織されている会である。毎月1回、経団連会館の一室で昼食を食べながら情報交換をする会とでもいおうか、なかなか特色のある会である。その会で最近、折角だから単なる同好会ではなく正式の法人格を持つ会にしようということになり、つい最近正式に「一般社団法人 技術同友会」となったものである。筆者も人生において残された時間は多くはないが、これらの仲間とともに社会のために何がしかの働きをしてみようと思っている次第である。

(一般社団法人 技術同友会会員、農学博士 岸 國平)

#### 【学会ニュース編集委員コーナー】

本会ニュースは身近な関連情報を気軽に交換することを趣旨として発行されております。会員の各種出版物のご紹介、書評、会員の動静、学会運営に対するご意見、会員の関連学会における受賞、プロジェクトの紹介などの情報をお寄せいただきたく願います。

投稿宛先：〒114-0015 東京都北区中里 2-28-10

日本植物防疫協会ビル内

学会ニュース編集委員会

FAX: 03-5980-0282

または下記学会ニュース編集委員へ：

高橋賢司、根岸寛光、有江 力、宇賀博之、芦澤武人

---

#### 編集後記

学会ニュース第66号をお届けします。

本号は、今年度の学会活動の案内を中心に掲載させていただきました。

6月に開催される大会のサテライトとしていくつかの談話会や研究会が開催されます。その後も教育プログラムや各種の談話会・研究会の開催が予定されています。部会とともに談話会や研究会などにも奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。

農業部門・植物保護の技術士に本会会員を含む12名の方が新たに合格されました。誠におめでとうございます。これからのご活躍が期待されます。農業部門・植物保護の技術士のこれまでの合格者数は82名となり、当面の目標である100名が目前です。誠に喜ばしい限りです。

堀江博道先生編著の「植物病原菌類の見分け方」の書評を掲載しました。岸國平先生に、この本がどれほど有意義で役立つ本であるかが良くわかる懇切な書評を書いていただきました。立派な本をわれわれにご提示いただいた堀江先生、そして示唆に富む書評を書いていただいた岸先生、ありがとうございます。岸先生の一日も早いご快癒をお祈り申し上げます。

先号の学会ニュースで100周年記念事業をご案内しましたが、再度本事業の案内と進行状況を掲載させていただきました。事業は引き続き滞りなく進んでいるようです。今後とも本事業に関心を寄せていただき一層のご協力をよろしく願います。

(高橋賢司)

---